

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290500030		
法人名	(有)シーシー商会		
事業所名	グループホームのどか		
所在地	千葉県千葉市緑区誉田町1丁目-111-1		
自己評価作成日	平成26年1月29日	評価結果市町村受理日	平成26年4月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7		
訪問調査日	平成26年2月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の皆さんが家庭的な雰囲気の中で生活できるように努力しています。 ・利用者の健康状態を把握し早めの受診を心がけて見ていただくようにしています。 ・3食の食事は栄養バランスを考えて、業者より納入スタッフの手作りにてリビングで利用者の皆さん一緒に召し上がっていただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>一人ひとりが、その人らしく自立して暮らしていけるような支援に取り組んでいる。意思表示できない利用者が多い中で、管理者、職員は意向の把握に努め、真摯に対応している。食事は栄養バランスを考え、また、食事形態についても個別に対応し、食器にも配慮するなど心配りが伺える。共用空間を囲むように居室があるので、部屋にいても調理の音や匂いが感じられ、普通の家庭にいるようなホームである。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	安心して生活が出来るようにその人らしい当り前の生活が穏やかに送れるように心のこもった介護に努めている。	「安心して穏やかな日々を過ごせるように」を理念に掲げ、その人らしい生活ができるように随時職員間で話し合っている。	理念の共有は図っているが、定期的に職員全員で共有する機会がない。全体会議などが定期的に開催されるとよいと思われる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方への挨拶は常に心がけて実践しています。 地域の行事にもなるべく参加するようにして行きたい。	地域の神社で行われる節分会や自治会の盆踊りに利用者と参加している。今後、自治会に加入できるように地域自治会との関わりを深めようと取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護サービスを受けている御家族の電話又、相談に見えた時、現在の状況を把握し丁寧な対応すると共にサービス事業所への紹介など行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には地域の民生委員、消防署、地域の役員さんに声かけし活動報告、利用者の生活状態などを報告を行っている。	民生委員、町内会会長、消防署などの参加で年3回開催し、地域住民にホームの状況を知ってもらう機会になっている。	今後は、行政や地域包括支援センターにも参加を働きかけていくことが期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当課に時々出向き、又電話等にて問題が起きた時には早期解決に向けて相談を行っている。	随時、何かあれば担当課に出向いたり、電話で連絡を取るなど、気軽に相談できる関係性ができている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が身体拘束の研修を受け研修レポートで共有している。拘束の理念その人らしさを引き出し笑顔のある生活を支援する。	笑顔を絶やさないケアで利用者の思いを汲み取り、「身体拘束をしない」をすべての職員で心がけている。身体拘束の研修に参加した職員が伝達研修で全職員に周知している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が見過ごされないようにスタッフ全員で防止に努めている。スタッフと話し合いをしている。特に言葉の虐待も含む。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内研修で学ぶ機会を持ち積極的に取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、管理者が契約内容を読み上げ分かりやすく説明し、質問に答え理解して頂くよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関前に意見箱を置き御家族の面会時には健康状態等を報告し家族の要望を伝え、アルバム等で日頃の活動を知って頂き、明るい生活を送っている。	家族の訪問時に意見を聞くようにしている。また、日頃から利用者の声に耳を傾けるようにしており、意見については、できる限り反映するよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は何かあれば、そのつど意見交換を行いグループホームの業務運営に関する情報を職員で共有し速やかに対応している。	管理者から働きかけて意見を聞くようにしており、入浴の手順なども職員の提案で変更した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすい環境をつくり気さくで話し合いの出来る職場になるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎日の引き継ぎ業務、ミーティングにおいて職員が取り組んでいる。研修の報告会を行い、資格取得にも積極的に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者間の交流や情報交換は常に行うように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者面接において病歴・生活歴など聴取しレポートになれて行く段階で本人の不安な様子を観察、声かけしながらその人らしさを生かし安心して生活出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族関係のいる利用者さんは少ないので本人の不安を取りのぞくよう、又御家族のいる利用者さんには電話で連絡を取りあったりしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	生活の環境変化に伴い、精神面のケアに力を入れるとともに健康面で気を付けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族と同様な関係作りに力を入れ見守りにて自分が出来る事は出来るように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と共に利用者の状況を把握し問題点がある場合は本人を支えて信頼関係を築いていく。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面接に来やすい対応、環境作りに努力して新しい生活に戸惑いのないよう工夫している。	家族などが訪問しやすいような雰囲気をつくるよう努めている。また、入居前からの馴染みの店に服を買いに行くなどの支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活を送る上で最低限必要なルールやマナーを守る大切さ、気の合う仲間の関係を大切するよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、いつでも気軽に相談やホームに来ていただけるようなホームであるよう努力している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者ご本人の意思表示を見逃さず、利用者の満足いく介護や主体性の確立を目指すように心がけている。	言語コミュニケーションが取りにくい利用者もあり、表情や仕草から読みよるようにしている。また、居室で1対1で話す時間を取ったり、声かけの機会を増やすなどして、思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者、家族の居る利用者のお話をゆっくり聞いてさしあげ、今までの生活歴、生活環境についての話を聞くなどし、表情豊かになられるよう支援する。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来ない事、出来る事、今何をしてほしいのか日々の会話や態度からその人らしい生活が出来るように常に公正な目で援助している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の変化を手早く感じたり問題のある時は早目にカンファレンスにて話し合いをしている。	利用者や家族の意向を踏まえ、管理者、介護支援専門員、職員で担当者会議を開き介護計画の作成とモニタリングを実施している。また、状態の変化や計画作成担当者の交代時にも見直しを行った。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者個々の健康記録、日々の生活の記録を作成し、毎日モニタ表をつけ必要な時には計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	スタッフ全体で利用者の家族が来られた時には温かく接している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護者間で地域の資源を把握し行事にはできるだけ参加し、交流を持つように心掛けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者には施設の協力医に往診を依頼している。二週間ごとに診察してもらっている。	従来からのかかりつけ医の受診を支援している。この他、月2回協力医の訪問診療で健康管理をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の健康記録を常時とり体調に異変が生じた際は早急に連絡・相談し、適切な対応が出来るように徹底している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリーを持っていき、退院時には病気に対する説明を聞き適切な処理の仕方をアドバイスを受ける。早期に退院できるように話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアについては、事前に家族との話し合いを聞き、家族の方々の不安を取り除く事はもちろん、連絡体制や協力医師の連携も確立している。	医療機関との協力体制は確立されている。医療処置が必要でなければ、ホームで終末期を支援したいと考えており、一度看取りの経験もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の既往歴を把握し、医師に急変時に備えて対応の仕方を確認、職員間で話し合いをしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練、消火訓練を行い、地震時の避難訓練をも消防署の方に相談し訓練を行う予定を組んでいる。	昨年は消防署立ち合いのもと利用者も参加し、夜間想定避難訓練を実施した。訓練後開催した運営推進会議には消防署にも出席してもらい、助言をもらった。	災害時の近隣住民との協力体制を作ることや、全職員が訓練に参加できる体制作りも必要と思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個人のペースに合わせた生活をしていただくよう声かけを頻繁にして気持ちの把握に努めるよう努力しています。	ホームは一人ひとりの尊厳を大切にし、特に言葉かけに配慮している。また、個人情報とは鍵の掛かる書庫で保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけ、傾聴により本人の思い気持ちをなるべく耳を傾け聞いて差し上げるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の心身の状態を把握し個別のプランで一人ひとりのペースに合わせ満足のできる生活ができるように援助している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に一度施設に来てもらい全員カットしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自分で下膳できる人にはなるべく見守りをしてお手伝いをしてもらっている。無理な人のは職員がしている。	ユニット毎に専門の厨房スタッフが調理をしている。食前にメニューを説明したり、器にも配慮するなど、食事を楽しめる工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量を記録し、低下が見られる人にはスポーツドリンクなどを積極的に提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後モンダミンでうがいを実行し週1回歯科医師の往診を依頼している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄記録を活用し職員の見守り、介助にてトイレでの排泄出来るように努力している。	入居した時にすでにおむつを利用していた人に対しても自立に向けて支援し、少しずつおむつに頼らない排泄ができるようになった例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃から水分を多めの摂取に心がけ便秘に気をつけ排便が困難な場合は医師処方の下剤を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが本人の体調や希望にそって入浴できるように心がけている。	男性の全介助の利用者が多いため、週に1度は入浴専門の男性スタッフが来ている。また、入浴剤や冬はゆずなどを入れて、入浴を楽しむ支援もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床、離床時間は本人の希望により居室にてテレビを見たり、自分の時間帯を大切に自宅でいただくように心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の薬ファイルにて相違ないように飲み忘れが無いよう確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日楽しく、明るい生活が出来るように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的には外出が現在の利用者には無理があるので何かの機会の時にはドライブをしたり、屋外での本人の希望を把握するようになっている。	車椅子の利用者が多く、日常的な外出の支援は難しい状況であるが、買い物やドライブ、通院などで外に出る機会を作っている。天気の良い日は玄関先で日光浴を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者はお金の管理が出来ないために利用者の代わりにお金の管理を行っている。本人から申し出があった場合は本人にかわり職員が買い物もやっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつも電話する事が出来る。手紙は職員が代筆しポストに投函に行くなど支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員手作りの作品、又、写真など飾り、時には一緒に歌ったりして楽しく過ごせるように努力している。	共用空間は温度、湿度にも配慮し、季節感を味わってもらえるような工夫もしている。訪問時は折り紙のお雛様を貼った作品が飾られていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにテレビがあり利用者全員で見ても楽しむ事が出来る。日当たりの良い所にソファを置き、思い思いに過ごせるように努力している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の気に入った家具の配置や使い慣れた物を置くなど居心地良く生活してもらうよう心がけている。	リビングを中心に居室があり、調理の音や香りを感じとれる。各居室ともベッドとテレビは最初から置かれており、居室で横になってテレビを見ている利用者もいるなど、自由に過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日頃から利用者本人と話す機会を作り満足していく介護や自立した生活が保てるよう利用者と共に努力している。		